

第 223 回
定例探鳥会

日時：2005 年 7 月 10 日 (日) 天候：晴れ
コース：高来神社 高麗山 八俣山 浅間山 水道山

前日の雨がうそのように、早朝から晴れ渡っています。気温はそんなに高くはないのですが、湿度が非常に高く、ちょっと歩いただけで汗が吹き出てきます。

集合時間前、きれいに晴れた青空をバックに30羽以上のヒメアマツバメが舞っています。ツバメとイワツバメも数羽と一緒に群れています。少し大型のアマツバメが1羽、群れの中を横切りました。7:20頃には5羽のアオバトが高麗山の上空を海の方へ向かって飛んでいきました。サシバが1羽、高麗山の陰から現れ、南の方へ飛び去りました。朝日を受けて翼が透けるように見えました。

高麗山への上り道ではタシロランやカラスアゲハなどが見られました。海の方が開けている所では、東海道線の貨物上り線路を秋田新幹線「こまち」の車両が電気機関車に牽かれて茅ヶ崎方向へ向かっているのを見ることができました。途中の坂では昨日の激しい雨のために水が流れて、沢登りのような感じです。それにしても山の中は静かです。いつも一番にぎやかなヒヨドリの声がほとんど聞こえてきません。毎年話題に出てくるのですが、7月から8月頃にはヒヨドリが非常に少なくなることを思い出しました。

浅間山に着いたのですが、鳥が少なく時間も早いということで浅間山から水道山の方へ下ることにしました。雨上がりで滑りやすい急坂を降りることになってしまいましたが、途中でキビタキのさえずりが聞かれました。ガビチョウがウグイスとキビタキの声を上手に真似て鳴いていました。直径が22cmもある巨大な白いキノコが3本見つかりました。キノコに詳しい内山さんがシロオニタケだと鑑定してくれました。また、神奈川県では非常にめずらしいヒメノヤガラというランも見つかりました。下りの道の終点付近で激しく水の流れる沢にぶつかってしまいましたが、助け合って全員が無事に渡ることができました。暑いなか、ちょっと大変な道のりでしたが、それなりの収穫もあり高麗山の新たな魅力を確認しました。

参加者

参加人数 23 名 (敬称略)

- | | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| 1. 下倉 紘一 | 2. 田端 そら | 3. 鈴木 逸子 | 4. 佐野 慶春 | 5. 洞澤 健 |
| 6. 松下 弓子 | 7. 山田 文則 | 8. 吉田 宣子 | 9. 木田 ハマ | 10. 八木 正 |
| 11. 大谷 秋代 | 12. 片倉 暹 | 13. 室野 義晴 | 14. 武末 範子 | 15. 別所 三郎 |
| 16. 南 博 | 17. 南 那津子 | 18. 大坂 英樹 | 19. 小谷 茂雄 | 20. (田端 裕) |
| 21. (内山 規矩雄) | 22. (金子 典芳) | 23. (岩佐 昌夫) | | |

見聞きした鳥

種類数 22 種 (sp を含む)

- | | | | | |
|-------------|------------|----------|----------|-------------|
| 1. トビ | 2. サシバ | 3. コジュケイ | 4. キジバト | 5. アオバト |
| 6. アマツバメ | 7. ヒメアマツバメ | 8. コゲラ | 9. アオゲラ | 10. ツバメ |
| 11. イワツバメ | 12. ヒヨドリ | 13. ウグイス | 14. キビタキ | 15. エナガ |
| 16. シジュウカラ | 17. ヤマガラ | 18. メジロ | 19. スズメ | 20. ハシボソガラス |
| 21. ハシブトガラス | 22. ガビチョウ | | | |

タシロランとヒメノヤガラ

先月の定例探鳥会は鳥の姿や声が少なく静かな森の中を歩きましたが、植物やきのこではめずらしいものを見ることができました。その中から、この地域では大変に珍しくて貴重なタシロランとヒメノヤガラの二種類のランを紹介します。

タシロランは平塚・大磯の西部丘陵地ではときどき見つかることがありました。例年は非常に数は少ないのですが、今年は吉沢や鷹取山では異常に数が多く、数十本が群生しているところもありました。ヒメノヤガラは非常に稀に見られるランで神奈川県では3ヶ所だけで確認されています(神奈川県植物誌)。「神奈川県レッドデータブック」では絶滅危惧種に分類されています。

この二種類について、内容がちょっと難しいかもしれませんが「神奈川県植物誌 2001(編集:神奈川県植物誌調査会、発行:神奈川県立生命の星・地球博物館)」の説明を引用させていただきます。

タシロラン(ラン科トラキチラン属 *Epipogium roseum*)

地下茎は地中浅く横に長くのび、1~3cm 間隔にやや楕円状をした花茎塊(塊茎)ができる。花茎を伸ばす花茎塊ほど大きく、先に行くほど小さくなるが、短年で成長し花茎を伸ばす。また、花茎塊はよく地下茎を伸ばし、花茎塊を形成するため、群生するのも稀でない。花茎は高さ20~50cm、淡褐色で膜質の鞘状葉を互生する。花期は6~7月。花は茎の上部に5~30個が垂れて咲き、白色~淡褐色。苞は薄い膜質の広披針形。萼片と側花弁は長楕円状披針形で先が尖る。唇弁は広卵形で全縁、淡紫紅色の斑紋が点々とあり、内面にいぼ状突起がある。距は長楕円形。蒴果は楕円形。本州(群馬県以西)、四国、九州、琉球;中国、台湾、東南アジア、インド、オーストラリア、ニューカレドニア、西アフリカに分布する。日本では常緑広葉樹林内に生える。県内では1958年に三浦半島の鷹取山山麓にて初めて発見され、その後、久里浜(1978)、観音崎(1983)、馬堀(1983)と産地が見つかり、観音崎では100株以上がシイ・タブノキ・シロダモの林内に生えているという。1970年代までは大変珍しいランであったが、最近では、おもに沿岸地に分布域が広がりやや普通。



ヒメノヤガラ(ラン科ヒメノヤガラ属 *Chemaegastrodia sikokiana*)

無葉緑の腐生植物。根茎はよく分岐し、鱗片葉がある。花茎は7~8月ごろ急速に伸び高さ10~20cm、花期は7~8月。花は花茎の上部に5~10個つき淡黄紅色。苞は膜質で卵型。背萼片は長卵型、側萼片は広卵型。側花弁は狭長楕円形。唇弁は子房がねじれないため、上に位置し、先はT字状に分かれ、基部は膨らみ内面に1対のいぼ状突起がある。ずい柱は短く基部にやや尖った突起がある。蒴果は紡錘形。本州(岩手県以南)、四国、九州;朝鮮に分布する。やや明るい常緑広葉樹林の林床に生える。県内では常緑広葉樹林の林床に生えるが稀。「神奈川県 RDB」では絶滅危惧種とされた。



写真はいずれも金子典芳さんの撮影です。

「アオバトの日」観察会

アオバト飛来の最盛期を迎え、夏休みに入ったことも加えて、土・日曜日ばかりではなく平日も、アオバト観察のために照ヶ崎を訪れる方が非常に多くなってきました。そんな中、7月31日(日)はこまたんが制定した「アオバトの日」です。5月から行っている最終日曜日の照ヶ崎連続アオバト観察会もこの日は特別です。こまたんメンバーはアオバトのお泊り調査も兼ねて午前4時から観察していました。参加者の出足も早く、明るくなる頃からポチポチと集まり始めました。これに応えるかのように4時30分頃の第一陣からアオバトの飛来も順調です。9時頃にはこれも恒例となった野鳥の会東京支部の皆さんが到着し、バーベキューや磯遊びの人たちと一緒に砂浜は超満員になっ



てしまいました。10時30分頃に金子さんによる丁寧で親切な解説も行われました。11時の終了までの来訪者は約160名を越える数になっていました。

【お知らせ】

照ヶ崎連続アオバト観察会

今年も5月から9月までの最終日曜日に、照ヶ崎連続アオバト観察会を行っています。早朝の海岸で岩礁の上を群れて飛んだり、岩場に降りて吸水する様子を観察しましょう。
開催日：今年は8月28日、9月25日のあと二回です。

場 所：大磯町照ヶ崎海岸、JR 大磯駅で下車して海岸に向かい、照ヶ崎プールの西側の堤防を登ればすぐ眼下です。駅から徒歩10分ほどです。バスの場合は、「さざれ石」で下車し、徒歩約5分です。

時 間：午前6時から9時頃まで(都合のよい時間においでください)

持ち物：特に必要なものはありませんが、帽子と水分の準備をお勧めします

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 9月3日(第1土曜日)

鷹取山 9月10日(第2土曜日)

午前6時に高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合、車で移動します。または6時15分までに、第1土曜日は松岩寺駐車場、第2土曜日は東の池に直接来られても結構です。いずれも時間が来れば出発してしまいますので、時間厳守をお願いします。午前中に解散、雨天中止。

秋の行事予定

大磯宿場まつり 11月6日(日) 大磯町山王町・旧東海道松並木

大磯文化祭 11月19日(土)・20日(日) 大磯・滄浪閣

こまたんも出展・出店します。詳細が決まりましたら本紙でお知らせします。

問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

鳥 報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

アオバト情報

照ヶ崎への飛来状況

日付	観察時間		天気	飛来回数	飛 来 数		備 考
	開始	終了			総数	瞬間最大	
7/3	3:56	10:03		30	211	49	幼鳥の初認: 7月16日の5:57。17羽の群れの中にいた。雨覆や次列風切羽が短くて「つんつるてん」の感じに見えた。岩場には降りたものの、オドオドしている感じ。海水を飲まずに仲間と一緒に飛び立った。 照ヶ崎海岸の砂浜は砂利が堆積して1~2m程高くなっていたが、7月27日の台風の影響による高波で以前の状態に戻った。砂利の下に隠れていた波打ち際の岩場も再び姿を現した。
7/10	7:00	12:00		49	369	44	
7/16	4:00	7:00	霧	26	375	70	
7/17	4:30	10:00		74	1114	77	
7/18	6:00	9:00		49	486	43	
7/22	5:25	7:00		15	246	37	
7/24	4:00	9:00		42	555	42	
7/27	6:00	10:00		21	298	56	
7/28	14:00	16:00		11	69	38	
7/29	6:00	10:00		54	904	60+	
7/30	6:00	10:00		64	1410	72	
8/1	13:30	17:00		23	121	14	
8/2	5:30	8:30		35	576	50+	
8/4	5:00	9:00		61	919	30	
8/6	6:00	10:00		63	1090	55	

花水川・平塚大橋のサギねぐら調査

観察日	天気	アオサギ	ダイサギ	チュウサギ	コサギ	ゴイサギ	サギ合計
7/5		0	0	0	0	0	0
7/8		1	0	0	0	0	1
7/15		1	0	0	9	4	14
7/18		1	0	0	14	5	20
7/22		1	3	0	58	20	82
8/3		2	12	0	64	24	102
8/5		2	24	10	52	18	106

その他の野鳥情報

マガモ : 7/12 平塚市・吉沢の池、2羽(ペア)、 が換羽中らしく青首が剥げかかったように見えた

ツバメ : 7/16 夕方、平塚市万田・湘南平入口上空、約30羽がチョウゲンボウをモビングしていた

カワセミ : 7/28 大磯町・谷戸川、2羽、幼鳥が親と一緒に上流に向かって飛んでいった

次回の定例探鳥会は2005年9月11日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第222号/8月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp/>

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>